

誰にも負けない、誰にも止められない。

蹴る

電動車椅子サッカードキュメンタリー映画

歩けなくても呼吸器をつけていても、できるサッカーはある。
世界へ挑んだ選手たちの激闘から日常や恋愛までを描いた6年間の物語。

永岡真理 東武範

北沢洋平 吉沢祐輔 竹田敦史 三上勇輝 有田正行 飯島洗洋 内橋翠 内海恭平 塩入新也
北澤豪 (日本障がい者サッカー連盟会長)

監督:中村和彦(「ブライド inブルー」「アイ・コンタクト」「MARCH」)

プロデューサー:中村和彦 森内康博 撮影:堺斗志文

録音:藤口諒太 整音:鈴木昭彦 音楽:森内清敏 宣伝デザイン:イングラフィカ 松本力

後援:(公財)日本サッカー協会 (公財)日本障がい者スポーツ協会 (一社)日本障がい者サッカー連盟 (一社)日本電動車椅子サッカー協会
(特非)日本ブラインドサッカー協会 (一社)横浜市医師会 (一社)日本筋ジストロフィー協会 (一社)全国肢体不自由児者父母の会連合会 SMA家族の会
製作:「蹴る」製作委員会(中村和彦+らだスタジオ) 配給:「蹴る」製作委員会+ヨコハマ・フットボール映画祭 助成:文化庁文化芸術振興費補助金

1時間58分/日本語/2018年/日本映画 ©「蹴る」製作委員会

文部科学省 特別選定(少年向き/青年向き/成人向き)

<https://keru.pictures> [f kerupictures](https://www.facebook.com/kerupictures) [t kerupictures](https://twitter.com/kerupictures)





重度の障害がありながらも、電動車椅子サッカーに人生を賭ける選手たち。世界へ挑む彼らの、競技にかける想いや日々の葛藤を追った、6年間の物語。

永岡真理は生まれながらにして難病「SMA(脊髄性筋萎縮症)」を患い、生涯で一度も歩いたことがないが、ひとたび試合が始まれば華麗かつ激しいプレーで観客を魅了する。東武範は筋ジストロフィーにより呼吸器が手放せず食事を摂ることも辛いですが、国内でも屈指の実力を誇る。真剣なトレーニング、家族のサポート、自らの障害との折り合い、恋愛模様、そして夢のワールドカップ。映画『蹴る』は、永岡・東を中心に電動車椅子サッカーワールドカップを目指す選手達を6年間に渡り追い続けたドキュメンタリー映画である。

電動車椅子サッカーは「生きることそのもの」



2011年7月、電動車椅子サッカー日本代表の強化試合。私の目は唯一の女性選手、永岡真理に釘づけになった。彼女と初めて対峙した私は思わず口走った。「あなたは今後日本代表に選ばれると思う。4年後のワールドカップにチャレンジする姿を是非撮らせてほしい」。

そこから資金のあてもないまま独りで撮影を開始した。選手たちの障害を知るため、資格を取り介護の仕事も始めた。ワールドカップが2年延期になったことで、撮影期間は6年以上に。その分選手たちとの信頼関係が深まり、本音をさらけ出してもらえるようになった。

選手たちの障害、プレースタイルや性格は様々だが、共通するのは競技に対する想いの強さ。そんな選手たちの想いを映像に刻み込みたい、その一心で撮影に打ち込んだ。

この映画を通して、電動車椅子サッカーの魅力を多くの人に知ってほしい。選手たちの想いを感じてほしい。生きる姿に目を向けてほしい。きっと“障害者”に対する見方も変わるはずだ。

映画『蹴る』監督 中村和彦

電動車椅子サッカーとは？

電動車椅子を操り、足元に取り付けたフットガード(バンパー)でボールを「蹴る」サッカー。選手の多くはSMA(脊髄性筋萎縮症)や筋ジストロフィー、脳性麻痺、脊髄損傷などにより自立歩行できないなど重い障害を持つ。4名の選手(男女混合)が20分ハーフでプレー。スピードは時速10km以下と定められており、日本国内のみ時速6km以下のルールも共存している。繊細な操作で繰り広げられるパスやドリブル、回転シュートなど華麗かつ迫力あるプレーが魅力。日本電動車椅子サッカー協会(JPFA)には40チームが登録、過去3回の全てのワールドカップに代表チームが参加している。

日本電動車椅子サッカー協会 公式サイト <http://www.web.jpfa.jp/>



ワールドカップフランス大会が終わった失意の中、出会ったのが電動車椅子サッカーの仲間だった。医者に止められてもプレーを続ける姿に背中を押されて私はピッチに戻った。彼らの真剣さ、勇気を受け止めてください。

FC今治オーナー 岡田武史

「生きているということが当たり前だと思わずに生活しています」という肉声が胸に刺さった。「蹴る」ことは彼ら、彼女らにとってはすなわち「生きる」ことなのだ。壮絶な蹴り様、生き様を中村和彦監督はここに刻印した。

ノンフィクションライター 木村元彦

電動車いす歴30年以上を誇る私なら、そこそこやれるだろうと挑んでみた。ところが、まったく歯が立たなかった。電動車いすで、あれほどの迫力と躍動感を生み出せるなんて脱帽!!

作家 乙武洋匡

2023年8月11日(金)9:30~
さわやかアリーナ 袋井市総合体育館 多目的室

静岡県袋井市久能1912-1

主催 / NPO 法人静岡 FID サッカー連盟

● お申し込み 下記URLまたはQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/a9E1qqxNgtDFJhdj7>

この事業は、静岡県合理的配慮理解促進助成を受けています。



先着100名
無料